

## 会 議 録

会 議 名	令和元年度第3回 第2期東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会	
開 催 日 時	令和2年1月22日(水) 午後2時から午後4時まで	
開 催 場 所	東浦町役場本庁舎3階 合同委員会室	
出 席 者	委員	高野雅夫(委員長)、成田盛雄(副委員長)、蟹江吉弘、中瀬進吾、平野智子、野崎麻里、鈴木真子
	事務局	企画政策部長、企画政策課長、企画政策課課長補佐兼企画政策係長、企画政策課主査、企画政策課主事、児童課長、児童課指導保育士、健康課長、健康課課長補佐兼健康係長
議 題 (公開又は非公開の別)	1 第2期東浦町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略(案)について 2 主要施策(子育て関連)の検討	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	—	
傍 聴 者 の 数	4名	
審 議 内 容 (概 要)	議題の審議内容は、別紙のとおり	
備 考		

## 審議内容（概要）

### 議題

1 第2期東浦町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（案）について（資料1）事務局から「資料1」について説明を行った。

2 主要施策（子育て関連）の検討

グループワーク形式で子育て関連の施策について検討を行った。

（1）ワークシートの内容について各委員から発表

<妊娠～出産期>

ア 不妊治療は精神的、経済的負担が大きいと聞く。結果が出ないと精神的に追い詰められてしまう。その結果、仕事に集中できなくなり、離職に繋がることもある。経済的な負担は無くして欲しい。

イ 産みたい人への支援という点では不妊治療への支援が大切だと思う。東浦町では一般不妊治療はあるが、高度不妊治療になると県の補助のみとなる。町の補助もあると良い。

ウ 現在、東浦町の不妊治療の助成は2年間の期限付きとなっているが、受給者にはその期間内で産まなければいけないというプレッシャーになる。また、不妊治療中は相談できる人が少なく孤独なので、不妊治療の助成に合わせてカウンセラーを設置したり、妊活コミュニティを設立するなどの支援があると良い。

エ 2人目が欲しいと思えるよう、母親の心と体のケアが必要である。出産後は母親の心と体のバランスが崩れて赤ちゃんがかわいいと思えなかったり、夫婦関係が悪くなったりすることで、「もう一人はいらない」と思ってしまう人がいる。心と体のケアを行い、母親の気力体力が戻れば、赤ちゃんをかわいいと思えたり、もう一人欲しいと思える人が増えるのではないかと。

オ 知り合いの子育て世代にヒアリングを行った。そこで出た意見、要望は以下のとおり。

- ・不妊治療の経済的負担が大きい。
- ・不育症に対する支援がない。（入院の必要があり、出産の準備ができないケースがある）
- ・母子手帳の発行、マタニティ講座が平日しかやっていない。
- ・プレママ同士の交流、情報交換、相談できる場所がない。
- ・町内に産婦人科がないため、運転免許証がないと通院できない。
- ・妊娠中の健康維持、体力増進のための教室を開催して欲しい。
- ・保育園で預かってもらえる時間が短い。
- ・望まれない出産への相談事業はあるのか。
- ・出産育児用品購入のための経済的支援が欲しい。
- ・出産前診断で赤ちゃんに障がいがあった場合の相談や、障がい児の相談事業はあるのか。
- ・陣痛タクシー（妊婦に対応したタクシー）に対応していない。（普通のタクシーだと来るまでに1時間くらいかかるので、出産に間に合わない可能性がある）
- ・出生後の検査が自費

<子育て期>

カ 知人（塾の先生）の話では、東浦町の小中学生の学習能力は全国と比較して劣っているらしい。学校で学習のサポートができていないため、塾等で補完する子は伸びていくが、それができない子はほったらかしになり、格差が広がってしまう。その原因は教員の労働環境にあると思う。教員の労働環境の改善は全国的な問題だが、東浦町の小中学校でも夜遅くまで職員室の明かりがついている。教員の仕事は子どもに向き合うことだと思っているが、机に向き合うことが仕事になってしまい、それが子どもの学力に影響を及ぼしているのではないかと。担任を持つと責任が大きくなり、潰れていく教員もいると聞く。教員が余裕を持って働けるよう環境を整備しなければならない。

キ 森岡小学校では子どもが子どもと繋がる「協同学習」に取り組んでいる。机はコの字に配置し、子どもが先生で先生はアドバイザーになる。協同学習では誰かを取りこぼすことがなく、学力は相対的に上がっていく。また、緒川小学校のオープンタイムでは子ども達がやりたいこと（校庭に穴を掘ったりウルトラマンの変身を覚えるなど）をとことんやることができる。これらの取組みが町内の各小学校に広がり、東浦町の特色になれば良いと思う。

ク 小中学校ともに東浦町には熱心な先生が多く、教育環境も良いという印象である。その中で、東浦高校が小中学校ともっと連携を図れると良いと思うが、義務教育と義務ではない教育には垣根が存在する。現在も東浦町は東浦高校を支援しているが、その動きを促進し、住民が地元の子どものを地元で育てるという意識を持つことによって人口増・人口定着に効果が出ると思う。

ケ 東浦高校の敷地に特別支援学校を建設する予定があるが、東浦高校にとってはメリットのあることだと思う。小中高の異校種連携に特別支援学校が加わることで地域の子どものを地域で育てる意識がより強まるのではないかと。

コ 前回提出されたひとり親家庭のアンケート結果を見ると、ひとり親家庭の年収は100～200万円が一番多い。また、養育費を定期的に受け取っているのは全体の4分の1程度しかない。これは非常に深刻な状況であり、行政の支援が必要だと思う。

サ ひとり親にとっては養育費が入って来ないことが一番の問題なので、一時的に行政が養育費を立て替えてはどうか。兵庫県明石市では信用保証会社と契約し、養育費不払いの場合は信用保証会社が養育費を支払い、父親に督促する制度を施行している。また、そもそも養育費の取り決め自体をしていない人も半数以上いるため、その辺りを法律的にしっかり取り組む必要がある。しかし、離婚前は心に余裕がない。女性は子どもを抱えて別居した後離婚するパターンが多いが、その状態の女性はひとり親としてもカウントされないので一番困っている。明石市では離婚前講座を実施し、法的・精神的なサポートをしているので参考にして欲しい。

シ 明石市は出生率が上がっている。これは困っているマイノリティ（少数の人）に対して行政がしっかりとサポートすることで、マジョリティ（多数の人）に対する強いメッセージになっているということ。それが住民の「もう一人産もう」という思いに繋がる。

ス 離婚後の生活を支援するために離婚合意書の作成方法や養育費の請求をサポートする専門的な人材を配置してはどうか。そして、離婚届けを取りに来た方にそのような支援を

周知・提供することで離婚後の不安が軽減するのではないかと。母親の精神の不安が子どもに与える影響は大きい。

セ 離婚した後で一番困るのは住む場所がないこと。住む場所がなければ仕事が決まらず、仕事が決まらなければ子どもを保育園に預けることができない。ひとり親家庭の住所の確保を考えるのであれば、空き家等を活用してシングルマザーハウスが設置されると良い。

ソ 今の時代、男性の育児参加は必須。三重県では県知事が育児休暇を取得したり、「みえの育児男子プロジェクト」と称して様々な取り組みを行っているので東浦町でも参考にして欲しい。

タ 職場（企業）がお母さんと一緒に子どもを育てる雰囲気づくりをできるかどうか、就労の継続に大きく影響すると思う。また、長く仕事を続けられる人は夫の子育て・就労への理解度が高い。行政の支援、相談を求める声もあるが、母親が仕事を続けられるかどうかは家族が理解して協力できるかどうかだと思う。

チ 仕事が続くか続かないかは本人にしっかりと働く意思があるかどうかだと思う。自治体に支援を要望したり自治体間で比較しても、自治体によって財政状況は違うのでできることは違う。親はそれを理解して子育てに励み、そのようにして育てられた子どもも自分達が次の世代を支えるという考えを持って子育てに臨む循環が生まれると良いと思う。

ツ 町の実施したアンケート結果でも、子育ての相談をする相手は親と友人が上位を占めている。これはいかに友人を幅広く作ることができるかが重要ということであり、それができれば安心して子育てができるようになる。

テ 2人目から3人目に踏み切るにはハードルがある。理由として、セダン車ではチャイルドシートを付けると5人乗れない、レストランでも4人掛けのテーブルが多いので待たされる確率が高くなる。これらを上回るメリットを出すために3人目以降は一人につき500万円を支給してはどうか。

ト 知り合いの子育て世代にヒアリングを行った。そこで出た意見、要望は以下のとおり。

- ・リフレッシュ保育が使いづらい。（生後6カ月以上でなければ使えない、グッズを揃えるのが大変等）
- ・リフレッシュ保育で使える保育園が限られるので拡充して欲しい。
- ・ファミリー・サポート・センターが気軽に利用できない。
- ・ファミリー・サポート・センターに休日連絡しても繋がらない。
- ・リフレッシュしたいのにリフレッシュ保育もファミリー・サポート・センターもお金がかかると思うと我慢してしまう。
- ・託児付き講座に興味がある講座がない。
- ・託児付き講座の回数を増やして欲しい。
- ・託児付き講座を休日に開催して欲しい。
- ・父親が子どもと一緒に参加できる講座を増やして欲しい。
- ・働きたいけれど保育園代が高くて預けられず我慢している。
- ・同じ月齢で出産した子どもとの交流の機会がない。
- ・気軽に相談できる場所がない。
- ・保護者が気軽に参加できるサークルを増やして欲しい。

- ・子どもの健診を休日に実施して欲しい。
- ・祝日保育をする園が緒川保育園しかない。
- ・全ての保育園を0歳から保育可能にして欲しい。
- ・児童手当の金額を上げて欲しい。
- ・病児保育が高い。
- ・初めての子育てで環境が変わり、情報を探す気力がなくなり、孤独となり産後うつになった。
- ・自転車の貸出し期間を在園中に延長して欲しい。
- ・保育園の母の会の負担が大きく、仕事を休まないと母の会の活動に参加できない。仕事を休むことができず、母の会の活動に参加できないので園での立場が悪くなっている。母の会は平日の夜も活動もあるため、子どもの就寝時間が遅くなり生活のリズムが崩れる。
- ・「母親クラブ」、「母の会」のネーミングが時代遅れ。これでは父親が入りづらい。
- ・働いていると土日に習い事が集中し、家族の時間がない。学童保育内で習字、ピアノ、空手など習い事を提供してもらえないだろうか。
- ・中学3年、高校3年の受験生に対してインフルエンザの予防接種を補助して欲しい。
- ・医療費の負担を18歳まで無料にして欲しい。
- ・公立・私立高校の授業料を無料にして欲しい。
- ・中学校の部活動が減少し、夜遅くまで自宅で留守番をすることになり、何をしているか心配
- ・家庭で性教育がしにくい。望まない妊娠をしないか不安
- ・母親に対するケアがない。
- ・幼稚園が少ない。
- ・保育園でも外部講師を招いた授業をして欲しい。
- ・インフルエンザの予防接種を補助して欲しい。
- ・入園入学のお祝い金が欲しい。
- ・子どもだけで遊べる場所がない。
- ・少しのパートだと学童に入れない。(受け入れてくれる場所がない)
- ・子育てサポートやシッターの一覧(民間含む)が見られるようなサイトや雑誌が欲しい。
- ・ファミリー・サポート・センターの登録手続きが大変

<その他>

ナ 名古屋方面へ通学するにしても名古屋から東浦に通学するにしても、交通の便が非常に悪い。東浦高校への通学では、最寄りの東浦駅に適切な時間に到着する電車が少ないため、一本乗り遅れるだけで遅刻となってしまう。JRの利便性の向上と安定した運行が保証されないと人口増は期待できない。例えば、東京に住んでいる人が愛知に住むことになった時、居住地を選択する上で一番初めに考えるのは通勤の交通利便性だと思う。交通利便性を上げることが人口増に繋がると思う。

ニ 知多半島の西側は名鉄沿線であり、交通利便性が高い。東浦町が大府市や刈谷市、知多半島の名鉄沿線の市町村との交通利便性の差を埋めるためには武豊線の利便性を上げるしかないが、東浦町以外の武豊線沿線自治体には名鉄も通っており、元々交通利便性が高

いため、意識に差がある。難しいと思うが、粘り強くやっていくしかないと思う。

コ 30歳成人式(同窓会)を開催することで未婚率低減の一助となるのではないかと。婚活のように初対面同士とだと親密な関係になるのはハードルが高いが、幼馴染であれば既に面識があるので話やすい。また、30歳は結婚適齢期であり、生活基盤も整っているので出会いの良いきっかけとなる。行政は式を主催する必要はなく、タイムカプセルなどの30歳になった時に集うきっかけを作るだけで良い。それが町としての特色になる。併せて、職の斡旋や住まいの確保の支援ができると良い。

シ 「もう1人」を考えてもらうためには、とにかく東浦町が安心して育児ができる環境だということアピールする必要がある。実際に東浦町は子育てがしやすいと思うし、親身になってくれる保育士や子育て支援センターの存在は大きい。

ス 小学校では共同学習・オープンタイムに取り組み、青年期には空き家でのオフィス利用や各種コミュニティの設立などの「クリエイティブ起業支援」を行うことで、東浦町が自分の思いが叶う場所になる。

セ 障がい児は習い事等で受け入れてもらえる場所が少ないので、障がい児を対象とした居場所があると良い。

ソ 総合計画を見ても高齢者が全面に出ており、東浦町は高齢者福祉に力を入れているような気がする。子どもと高齢者の関わりを増やし、子ども達への投資を高齢者に理解してもらえると良いと思う。

オ 知り合いの子育て世代にヒアリングを行った。そこで出た意見は以下の通り。

- ・シングルマザーの生活支援(仕事と子育ての両立、急病などの相談)が欲しい。
- ・10代で出産した父母への支援が欲しい。(働くことのないまま父母になっているので社会人としての成長を支援して欲しい。)
- ・町内公園の遊具が修理中で使えない。
- ・遊べる公園が近くにない。
- ・子育てをしている人が声を掛け合える場所があると良い。
- ・助けが欲しいけれどお金がかかる。
- ・障がいを持って生まれた子への支援。自分達が死んだらどうなるのか不安
- ・夫が育児に参加しない
- ・国道沿いが危ない。(子どもの通園・通学時)
- ・警察・消防・税務署の管轄が半田市で大変
- ・プラゴミの回収が隔週では少ない。

## (2) 各委員の意見について整理

各委員から出た意見を整理した結果、以下の5つ施策が必要との結論に至る。

### ① 子育てに係る経済的なサポート

不妊治療期限撤廃、医療費18歳まで無料、病児保育料の軽減、ひとり親家庭の支援などが必要

### ② 情報へのアクセスへのサポート

情報は出ているのだろうが、その情報にアクセスすることができない人がいる。

### ③ 交流のサポート

産後ケアをはじめとして子育ての様々な場面で不安になったり孤独になったりしている人がいる。そういった時に相談できる人を作るための場が必要

④ 教育環境（地域との連携と先進的な取組みの延伸）

小中学校については進んでいる面と教員の労働環境の問題がある。地域との連携や協同学習・オープンタイムといった先進的な取組みを伸ばしていく。

⑤ 交通の利便性の向上

JR やタクシーの問題、通園通学時に国道が危ないという問題もある。

(3) まとめ（高野委員長）

本日の意見を参考にパブリックコメントに向けた案の作成を進め、その案ができた段階で委員にも意見を聴取して欲しい。総合戦略の中では具体的な施策は書かないが良いと思うが、今日出た意見については行政で具体的に検討していただきたい。その上で、次回会議の際に検討状況について報告して欲しい。この委員会に向けて各委員が大変な労力を使っているので、総合戦略に抽象的な文言を載せただけで終わりではまずいと思う。「これはできない」というところもあると思うが、新しいアイデアも出てきたので、具体化できる場所は実現に向けて検討してもらいたい。そうしないとこの会議の存在意義が分からなくなってしまう。

午後4時閉会